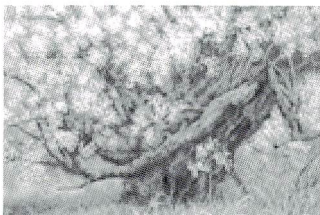




浮かんだイメージは、コピー用紙の裏など、とにかく手近にあるものに描き留める。それをもとに、長年愛用している筆や刷毛を使って肉付けしていく。こまは「師匠のところから頂いてきたので、年がらに入ってます」



出産前に「今までの集大成のつもりで描いた」桜の作品。実際に奈良にある巨木をモデルに、手前に「生まれてくる赤ちゃんをイメージした」若木を配した。初心に返るため、独立を機にアトリエへと運び込んだF50号の大作だ



立ち上げ前の準備期間から企画・制作の面で協力を惜しまない「京優楽」が展開するブランド「優楽友禅」。倉敷・児島産のジーンズに京友禅で絵付けしたこのオリジナルシリーズには、吉田さんの作品も多数ある

京 KYOTIAN I.D.

京のおきばりさん

取材・文/山田涼子 撮影/木村有希 (Visual Cafe)

意匠家

吉田亜紀子

YOSHIDA AKIKO

【プロフィール】和歌山県出身。美術短大への進学を機に京都へ移り住み、卒業後はデザイン事務所に就職。イラストレーターの仕事をしながら、着物に魅せられ絵付けの世界に飛び込む。'96年に、手描き友禅作家・難波和夫氏に師事し、女流作家の視点から着物を制作。和テイストの京都発ジーンズなどの製作にも携わる。'08年4月独立、Y's factoryを立ち上げる。

自分を育ててくれた京都に 恩返しする気持ちでものづくりを

10年一区切り。今春独立したのは、そんな想いがあってのこと。肩書きは「意匠家」、手描き京友禅を学んできたからこそ「衣裳家」という意味も含まれている。とはいえ、手がけているのは着物や帯ばかりではない。Tシャツのデザイン、ジーンズへの絵付け、オブジェやディスプレイ用品のデザイン・制作、玄関の覗き穴のフタのデザインを請け負ったこともある。また、秋口の商品化を目指して、和紙×革のコラボ素材でつくる財布などの小物も企画中だ。パリパリのキャリアウーマンか？と思いきや、5歳になる男の子のお母さんでもある。出産を経験したことで、母親としての視点から、子どもが着やすく、素材的にも安心で、親子で一緒に楽しめるものを作るようになった。「独立できたのも家族の理解があつてこそ」と吉田さん。協力してくれる家族への感謝が作品にも表れているのか、モチーフには地蔵や動物など、心温まるものも多い。

「笑」と。純粋に、「ものづくりが好き」な気持ちはいまも変わらない。作業をはじめると、時間を忘れて没頭してしまうことも珍しくないという。

高校時代、京都に遊びに来て「なんですこい町なんだろう！」と感動したのは、文化がぎゅつと詰まっている面白さを肌で感じていたから。その後、ものをつくっている町に住みたい、という願いは現実のものとなった。偶然にも地場産業に携わっていたり、ものづくりを生業としていた人たちに囲まれ、年々強く「次世代に受け継いでいける文化を支えたい」と感じるようになったという。伝統産業を守っていくことはもちろん、それを新しく進化させ、京都という地域性を生かした文化を発信していきたい。「とはいえ、ひとりでは何もできないので、同じように考えている人たちと一緒に実現させたいですね。」

いままで学んできた技術を、知り得た知識を、着物だけでなく様々なものに活用し、異業種とのコラボも視野に入れて、広く世界へと伝える。それは、作家としての己をここまで育ててくれた京都という町に対して、出来ること。すべきこと。——そう決意する彼女は、きつと近い将来、何かを成し遂げてくれるはず。

information

『Y's factory』京都 香櫻美

<http://kyoto-kaoby.com/>

『京優楽』

<http://www.waraku-yugin.com/>

<http://www.rakuten.ne.jp/gold/kyo-waraku/>